

2019 年度第 2 四半期決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 精密機械・ロボット事業について、上期で 30 億円しか利益が出ていない状況にありながら下期に 130 億円の利益を見込んでいる理由を教えてください。</p>	<p>A1 : 精密機械ロボット事業のうち、油圧機器に関しては前年度並みのペースで売上が進捗していますが、上期は増産対応コストや研究開発費の増加等により利益率が低下しました。下期にはコストダウン効果等が期待できることから、上期に比べて利益率が改善するとみています。 ロボットに関しては季節性があり、上期に比べて下期の方が売上・利益共に増加する見込みです。特に、半導体市況の回復を背景とした販売増を見込んでいるほか、自動車向けは売上・利益が第 4 四半期に集中する傾向があります。</p>
<p>Q2 : モータサイクル&エンジン事業について、通期の利益見通しを 120 億円から 90 億円に引き下げた理由を教えてください。</p>	<p>A2 : 利益見通しを下方修正した理由は為替変動であり、ドルやユーロに加え、その他多くの通貨で円高に推移した影響が出ています。</p>
<p>Q3 : 船舶海洋事業について、上期に LNG 運搬船の受注がなく受注残高が僅かとなっていることから今後の操業は低水準になることが想定されますが、対応策はありますか。</p>	<p>A3 : 上期に LNG 運搬船の受注はありませんでしたが、引き続き商談中です。また、LPG 運搬船の商談も複数進行しています。</p>
<p>Q4 : 先日ボーイング社から発表された Boeing787 の減産（2020 年末より約 2 年間、生産レートを現在の月産 14 機から月産 12 機へ引き下げる）について、当社にどのような影響がありますか。</p>	<p>A4 : ボーイング社から当社に直接の連絡が届いていないため、どのような影響が生じるか現時点では不明です。仮にボーイング社の発表通りに減産とった場合、今年度業績への影響はありませんが、来年度以降の売上高減少や操業低下等の影響が考えられます。</p>